

NO!リニア

No. 8 1

2014年 8月27日

J R 東海労働組合

リニア反対プロジェクト

2014年8月26日

責争

店取

乗斤

屋

リニア工事、南アルプス優先

知事反発「論外だ」

川勝平太知事は25日の定例記者会見で、JR東海が、リニア中央新幹線計画で難工事が予想される南アルプス一帯を優先するとの見通しが伝えられたことについて、「生態系への影響と大井川流量の減少が心配され、とんでもない。論外だ」と強く反発した。

念頭に「南アルプスには最も慎重になるべき場所」と強調。その上で、「にもかかわらず工事に入り、少しでも変化があれば、私自身が現地に行き、差し止めるくらいの強い気持ちだ」と言い切った。

工場の順番は「地質の順番は」

工学が分かっていると「第1に東京・品川―甲府間を、第2に名古屋―中津川間を挙げた。2020年の東京五輪までに品川―甲府間を先行開業して、「世界にPRする絶好の機会とすべき」と持論を述べた。

知事は環境相や国土交通相が7月までに公表した意見書の中身を

知事の反発は、問題が解決 されていないことの証左だ！

静岡県知事は「JR東海はリニア中央新幹線建設について、困難が予想される南アルプス一帯の工事を優先させる見通し、一日も早く着工したい」などとする報道に対し「論外だ」と反発しています。

環境相はリニア中央新幹線の環境影響評価書について、国交相に対し「山梨リニア実験線区間の河川流量観測結果のみでは地下水や水環境に関する予測の不確実性は高い。南アルプス周辺一帯がエコパーク申請地としての資質を損なうことがないよう、関係地方自治体と十分調整し、その意向を尊重すること」という内容を含む意見書を提出しました。国交相はこれらを勘案し「リニア中央新幹線の実施に当たっては、環境保全に十分な配慮が必要だ」とする意見をJR東海に示しています。静岡県知事の反発は「JR東海は国や県の意向を尊重せず調整も不十分だ」ということの表れです。

このまま着工すれば、沿線の自然環境は取り返しのつかない影響を受けるのではないのでしょうか。

JR東海は直ちにリニア中央新幹線建設を中止するべきです。